

13. ムラサキミミカキグサ（タヌキモ科タヌキモ属）

Utricularia yakusimensis Masam.

2014年8月

日当たりのよい貧栄養な湿地に生育する多年草で、当地域では山間部のため池の集水域側の湿地や窪地にできた湿地に見られます。同所的にサギソウ (*Habenaria radiata* (Thunb.) Spreng.) やトキソウ (*Pogonia japonica* Reichb. f.) などが生える環境です。地下部に糸状の根茎があり、捕虫囊をつけて線虫などの小動物を捕捉し消化吸収します。葉は地上部にへら形で長さ3~6mmの葉を所々つけます。花は8~9月ごろに5~15cmの細い花茎に1~4個の淡紫色の花をつけます。まれに白花種があり、シロバナミミカキグサ (*Utricularia yakusimensis* Masam. forma *albida* (Makino) Hara) といいます。蒴果は耳搔き状になり、和名の由来となっています。捕捉方法は浮遊植物のタヌキモ類と同様で、捕虫囊の入口弁下部にある感覚毛に触れた途端、弁が開き捕虫囊が広がって、水とともに小動物が吸い込まれる仕組みになっています。分布は北海道から屋久島で、当地域周辺では加西市、小野市、三木市、加東市などの播磨地域中北部の山間湿地で確認されています。兵庫県版レッドデータブック2010のCランク、近畿版レッドデータブック2001のCランク、日本の絶滅のおそれのある野生生物第4次レッドリストはNTランクに位置する全国的に希少な種類です。当地域に見られる似た種類にミミカキグサ (*Utricularia bifida* L.) とホザキノミミカキグサ (*Utricularia racemosa* Wall.) があります。両種とも生育環境は同じような湿地ですが、特にミミカキグサは貧栄養ため池の水が引いて出現した粘土質湿地によく見ることができます。また、ホザキノミミカキグサは花茎30cmほどにもなり、3種の中では高茎で、生育地はミカヅキグサ属 (*Rhynchospora* Vahl) やシンジュガヤ属 (*Scleria* Berg.) などの中茎種が繁茂するような、やや栄養分の高い環境を好むようです。



左：ムラサキミミカキグサ



右：シロバナミミカキグサ



左：ミミカキグサ



右：ホザキノミミカキグサ